

工学教育に関する調査

欧米大学における教育評価調査 —達成度・満足度調査について

2011, Aug., 29
国際工学教育推進機構
教育調査・評価部門

大学での教育効果(outcomes)評価については、学生(及び関係者)へのアンケートによる客観評価調査が広く行われている。従来、この種の調査は大学の各部門・部局によって個別に実施されてきたが、IR(Institutional Research)への認識の高まりとともに、教育センターや本部副学長室(Office of Provost)といった全学共通の機能によって実施されるようになってきている。

本資料では、卒業予定者による達成度・満足後調査について、米国と英国の状況を簡単に説明する。なお、参考 URL については、全て 2 節にまとめて挙げてある。

目次

1. 概要
 - 1.1 米国
 - (1) 調査の種類
 - (2) 卒業予定者調査(学部での Senior Survey 相当の調査)
 - (3) 学生満足度調査(在学生)
 - 1.2 英国
 - (1) 卒業予定者調査 NSS
 - (2) 学生満足度調査(在学生)
2. 調査の例 (URL など)
 - 2.1 米国大学 (大学センター情報、Senior Survey 関係の例)
 - 2.2 英国 (UK Student Survey 等)

表 1-1, 1-2, 1-3

1. 概要

1.1 米国

(1) 調査の種類

大学共通のセンターや IR 部門等の共通部門が、以下のような大学・教育に関する種々の(アンケートによる)教育効果の評価調査を幅広く実施している。

・ 新入生関係:

Pre-Freshman Survey, Freshman Survey, First Year Survey, Transfer Survey,

- ・ **在学生関係:**
Enrolled Student Survey, (Student) Experience Survey (Engagement Survey, Census Survey), Student interviews, Diverse Learning Environments Survey, Satisfaction Survey, Student Satisfaction Survey,
- ・ **(学部)卒業予定者関係:**
Senior Survey, Graduating Senior Survey, College Senior Survey, Senior Exit Survey, Career Destinations Survey, First Destination Survey,
- ・ **大学院関係:**
Graduate incoming enrolled & exiting students survey, Graduate Student Survey, Satisfaction Survey, Doctoral Student Exit Survey, PhD Career Destination Survey
- ・ **教員関係:**
Faculty Survey, Classroom Survey
- ・ **卒業生関係:**
Alumni Survey, Undergraduate Alumni Survey,
- ・ **保護者関係:**
Parents of Freshmen & Undergraduates Survey, Parent Financial Aid Survey,
- ・ など

(2) 卒業予定者調査(学部での senior survey 相当の調査)

・ 注意点

米国では学部 4 年次を Senior と呼ぶため、一般に卒業予定者に対する調査を Senior Survey と呼んで、他の在学生向け調査と区別している。ただし、student satisfaction survey という名称で呼んでいる大学もある。この場合、在学生向けでも satisfaction survey と呼んでいる場合も多いので混同しないように注意が必要である。

・ Senior survey の内容

一般に、学業関連、大学生活全般、大学の施設・サービス、及び就職・進路に関する様々な設問が含まれている。設問数は、個々の大学により 20 問程度の場合から、数問から 10 問程度に区分けした多くの設問グループによって総数 100 数十問に至るものまで様々な形式がある。

さらに、大学によって米国の社会状況を反映した個人の属性情報、両親・保護者に関する設問を含めている場合や、健康上の設問として飲酒・喫煙の習慣・頻度などを含むものもある。これらは、統計情報用および／または個人情報という断りがしてある。また、調査回答率を上げるためのインセンティブとして、謝礼や抽選での景品などを実施している大学があり、日本とは異なる習慣が見られる。

・ 大学別の特徴など

- MIT, Cornell, Penn. State Univ., UCLA の各大学の例を、**別表 1-1, 1-2, 1-3** に示す。
- 米国東部*では**共通情報**を用いている大学がある。例として、Cornell 大と MIT を比較すると、若干の修正や変更がある設問以外は基本的な設問項目と内容は同一であり、共通設問は 196 問である。個人情報の設問数は 9 件で数は同じであるが、そのうち内容が同じものは 4 件。 (* 東部 10 大学コアリッションと呼ばれる)
- **MIT**: 「MIT 学生だけに向けた設問」を 41 問付加している他、共通設問に詳細設問を追加

して(その内の半数は専門 Major 関係)全体で 96 問が追加されている。共通設問と合計した総数は 292 問である。(自由記述とインセンティブについての質問は除く。)

- **Cornell 大:** Cornell 大のみの追加設問は 30 問で、共通調査との合計は 226 問である。MIT の上述の専門(Major; 第 1、第 2、第 3)に関する具体的な設問(38 問)は Cornell 大の調査には無く、共通設問「第 2、第 3 専門の有無」と満足度の設問だけである。
- **MIT と Cornell 大の比較:** MIT は専門についての詳細な満足度や学業に関する、より詳細な情報を聞いており、理工系の特徴が現れている。一方、Cornell 大では、基本情報の他には追加も少なく、一般総合大学としての特徴が出ている。
- **Penn State Univ.:** 卒業予定者調査を Student Satisfaction Survey と呼んでおり、設問は 90 問である。内容は上記の東海岸大学共通情報の傾向と同様で、学修・大学機能・施設に関するものが主である。いわば MIT/Cornell 大で説明した共通情報の内容をほぼ半分に圧縮した形になっている。
- **UCLA:** 統計用及び個人情報を除く 258 問の多様な設問によって、学業から日常生活の様々な側面を聞いている。即ち、具体的な表現の文章や事項を多面的に数多く挙げており、それに対して当てはまる程度・頻度、重要・非重要とその程度(例えば、“非常に”、“やや”)等を、いくつかの質問形態の選択式で聞いている。ただし記述式の設問はない。西海岸という地域性が現れており、日本の大学ではまず含めないような日常生活の質問(例えば、飲酒の種類、喫煙、人種/文化的相違による体験、宗教など)も含まれており、東海岸とは印象がかなり異なる。
- **USC:** 在学生向けの共通設問 121 問(及び自由設問 5)に、卒業予定者向けの 17 問を付加した構成となっている。UCLA と同様の内容もあるが、満足度の設問が多いこと、5 つのカテゴリで自由記入があること、外国体験(旅行)、グローバルリテラシについての設問(4 問)、留学生向けの設問(6 問+自由記入 1 問)があることが特徴的である。

・ 調査頻度、方法、回答率

調査頻度は大学によってかなり異なる。即ち、大きな改善を行う場合には数年に一度、定期的に行う場合は 2 年から 3 年に一度(MIT は隔年、Cornell 大は 4 年おき、Penn. State 大は原則 3 年おき)であるが、毎年行っている大学もある。調査は多くの大学で調査専用の Web ページに学生が直接アクセスして入力する方式であるが、UCLA では手書きのマークシート方式が用いられている。

回答率は、低い大学からかなり高い大学まで様々である。例えば、前者では 10%以下から 20 数%という数値が見られる。これに対して、2010 年度の Cornell 大では 50%、MIT では 77%と発表されている。

(3) 学生満足度調査(在学生)

最終年次以外の在学生によるアンケート調査(満足度調査、体験調査、生活実態調査など)は、毎年または数年ごとに行なっている大学が多い。大学によっては半期(学期)ごとに行なう場合もあるようである。内容としては、Student Survey と同様の内容を「今学期、今年度」といった条件で聞いて調査している。設問数は、少ない場合で 20 数項目程度、通常は 100 項目から多い場合は 200 項目を超える数である。

(2)項で説明したように、USC では在学生調査に4年生向けの設問を加えて卒業生向け調査としている。(2008年度までの調査ではSenior Surveyを別フォーマットで実施していたが、2009年度から変更された。) 作業の効率化からか、この形式をとる大学も少なくないようである。

回答率の例としては、下記2項のPenn State大の調査データでは17.4%という数値である。

(4) 国際性、グローバルに関する調査項目

・ 全般的な特徴： 自大学、自国中心

多くの大学の調査項目が自大学での視点中心であり、国際性に関係ある項目でも自大学(内)での異文化・異人種関係の行動・活動に限っており、国外との対応、国際・グローバルという視点・キーワードでの設問を設定していない。例えば(2)項に挙げた大学では、これらの観点は(後記のUSCを除き)以下のような極めて限定的な設問しかない。

- MIT/Cornell大: 共通項目の3カテゴリの中にそれぞれ1項目ずつ以下の問が含まれている。即ち、大学のEthnic/racial diversity of the campusの程度(への評価)、学生自身の「Students from the outside the USとの交流」の度合い、学費関係で「Due to lack of money, I have had to forgo 'study abroad が生じたか」、の3点のみである。
- Penn. State Univ.: Academic experiencesの中の1項目で「Penn State short- or long-term study abroadを体験したか」、の1問のみ。
- UCLA: 関連設問は上記の大学よりは多いが、断片的である。即ち、自己達成度のカテゴリの中で「Understanding of global issues」と「Foreign language ability」の2項目、具体的な体験のカテゴリの中で「Racial/ethnic groupsとの交流体験(“共に食事をした”、“警戒して交流した”、“個人的な感情・問題を共有した”、“敵対的な関係を持った”、“課外で知的な議論をした”、等の9つの状況について答えるようになっているが“国際”という観点ではなく学内交流が前提)」、重要度のカテゴリの中で「Improving my understanding of other countries and cultures」。以上の4問である。

・ USCの場合： 自己・自国と外国との関係の意識

これらに対して、(2)項のUSCで触れたように、同大学では国際関係の調査項目を含めており、特に、“Global Literacy”と“Awareness of cultural difference in a global context”について、“IN CLASS”と“OUT OF CLASS”に分けて「回答者がどの程度進歩を遂げたか」を聞いている。さらに、“International Travel”を在学中に行なったかを、その目的(勉学、研究、会議出席、USCのプログラム、他のプログラム、休暇・観光、帰省・家族訪問、その他)に分けて聞いている。また、留学生だけへの設問を設けている。USCの達成度調査はこれらの点で大変特徴的であり、米国ではこのように外国に対して相対化して「自己と外国の関係」を評価する調査例は、むしろ珍しいといえる。

1.2 英国

英国及び米国外の多くの国(例えば、豪州、インドなど)では、一般にstudent surveyという呼び方が一般的である。

英国では卒業予定者調査は国の枠組みで、**National Student Survey (NSS)**として2005

年から進められている。在学生の調査では、Student Satisfaction Survey という呼び方が一般的で、多くの大学で実施されており、結果も公開されている。大学院では、HEA (The Higher Education Academy) により行なわれる全国調査である Postgraduate Research Experience Survey (PRES)、及び Postgraduate Taught Experience Survey (PTES) の 2 種類がある。前者は研究学生、後者は教育学生 (taught degree) 向けである。また、各大学での在在学生については、Postgraduate Research Student Satisfaction Survey (Internal Survey) などの調査名称が見られる。

(1) 卒業予定者調査 NSS

・ 調査の枠組み

HEFCE (the Higher Education Funding Council for England) により全国共通調査 National Student Survey (NSS) が 2005 年に導入され、以降毎年、学位取得最終年の学生を対象に実施されている。当初はいくつかの主要大学の student union が反対したこともあり、回答率も低かったが、課題も解消されて次第に浸透してきているようである。現在は、イングランド、ウェールズ、北アイルランドの大学に対して義務化されているが、学生自身の回答は自由意志に委ねられている。スコットランドでは義務ではないが、多くの大学が参加している。

・ 調査の内容

学修・コースプログラム、学修環境の評価であり、米国の Senior Survey に含まれているような学業以外の大学生活についての設問は含まれていない。全国ベースの共通調査であることから学業中心として、文化的に多様となる生活面は含めないことがその理由と推定される。

以下の 7 群に分かれた 28 問、及び記述式の 2 問 (良かった点と悪かった点を別々に記述) から成る。なお、設問数少なく絞って基本的な事項のみを聞いていることもあって、国際やグローバルといった観点は含まれていない。

	設 問 分 類	設問数
選 択 式 *	The teaching on my course	4
	Assessment and feedback	5
	Academic support	3
	Organisation and management	3
	Learning resources	3
	Personal development	3
	'Overall, I am satisfied with the quality of the course'	1
合計	22	
記述式	Any particular negative or positive aspects you would like to highlight	2

* 6 選択肢: Definitely agree, Mostly agree, Neither agree or disagree, Mostly disagree, Definitely disagree, Not applicable

・ 調査全体の運営管理、調査データ

全体の運営は Ipsos MORI 社が行っている。調査方法は、調査用紙をダウンロードなどで入手し、これに直接書き込む方式である。(「黒又は青ペンを使うこと」という指示がされている。) 調査

結果は電子的に公開されており、HEFCE が所有する Unistats のサイトからファイルをダウンロード可能である。(URL は下記 2.2 項参照)

(2) 大学院修了予定者調査

・ 実施体制

大学院関係の達成度調査は、The Higher Education Academy (HEA)が全国ベースで実施している。HEA は、2004 年に2つの教育関連組織が合併した独立組織で、政府の教育資金関係団体(HEFCE, SFC, HEFCW and DELNI)からの拠出金と大学会員の会費などで運営している。なお HEA は NSS に関しても協力している。調査は参加する各大学が BOS(Bristol Online Surveys)が運営するシステムに加入する(経費を払う)ことによって可能となる。学生はこのシステムにアクセスして回答を投入する。なお、本システムは Bristol 大学が開発したものである。

・ Postgraduate Research Experience Survey (PRES)

研究学位を取得する学生を対象とする。PRES は最初に 2006 年に試行され、その後 2010 年を除き毎年実施されている。直近は 2011 年(調査回答投入時期は 2 月から 5 月の 17 週間)で、2011 年は 90 校が参加。

	設問分類	設問数	形式
選択式	Supervision	6	A
	Skills Development	6	A
	Infrastructure	6	A
	Intellectual Climate	5	A
	Goals and Standards	4	A
	Thesis Examination	5	Y/N(1), B(6)
	Professional Development and Career	3	A
	Roles and Responsibilities	4	A
	Completion of Degree Programme	6	C
	Teaching Opportunities	3	A(1), B(2)
	Personal Factors	3	A
	Broad Aspects (of Degree Pro.)	7	7 段階(-3~+3)
	Timescale of Degree Completion	1	A
合計	59		
統計用	専門、個人情報、組織など	16	
記述式	Further information	2	D

形式 A: 1(Strongly disagree)－5(Strongly agree), B: A 形式+”NA”(即ち 6 選択)

C: 1(Not at all important)－5(Very important), 及び各設問にコメント欄

D: Teaching experience; research degree programme

・ Postgraduate Taught Experience Survey (PTES)

研究論文を書かない教育学位(taught degree)を取得する学生を対象とする。PRES に 2 年遅れて 2008 年より毎年実施されている。直近は 2011 年で 70 校が参加した。大学によって参加年を選べるので、Cambridge 大のように 2 年おきとしている大学もある。

	設問分類	設問数	形式
選 択 式	Motivation	2	(各々8、14 選択肢)
	Quality of Teaching and Learning	8	A(7), B(1)
	Assessment and Feedback	6	A
	Dissertation	7	Y/N(1), A(6)
	Organisation and Management	6	A(5), C(1)
	Learning Resources	6	A
	Skills and Professional Development	6	A
	Career and Professional Development	3	A
	Overall Satisfaction	7	7 段階(−3~+3)
	合計	51	
統計用	専門、個人情報、組織など	13	
記述式	Further Comments	2	Positive , Negative

形式 A: Definitely disagree—Definitely agree, +“NA”(即ち 6 選択),

B: Consistently good, variable but generally good, Variable but generally poor, Consistently poor, C: Much higher than I expected, higher than...

ケンブリッジ大学の例では、PRES を Taught MPhil, Diploma, PGCE 等向けで 2 年ごと(次回 2012 年春)、PTES を MPhil , PhD 等向けで 2 年ごと(2011 年 3 月に済み)に実施している。なお、これらの他に、Leavers 即ち OB 向けの「Destination of Leavers from Higher Education Longitudinal Survey (DLHE)」を修了後 6 ヶ月後と 3 年後に実施している。

(3) 学生満足度調査(在学生)

調査は NSS の項目に大学独自の項目が付加された形式が多いようである。(調査自体は当然ながら大学別) 回答率は、大学によるが 20 数% から 30%、ないし数十%程度であり、低い場合には数%という数値もある。(以下の例での最近の数値例では、Oxford Brooks Univ.で 8%。)

・ 個別満足度調査の例

例として Bath 大学では、2002/2003 調査(03 年卒業・修了)の学生満足度調査 Student Satisfaction Survey を実施し、その後 05/06 年調査で修正を加えて(名称を Student Experience Survey に変更)、直近の調査は 09/10 年調査である。これは、大学院用の設問 8 問以外は、基本的に学部、大学院共通である。内容は、大学の修学プログラム、教育と学習、学生の声(大学・学生委員会など)、大学の環境・施設・サービス(図書・学習センタ、計算機サービスは別項立て)、学生ユニオン、総合評価(6 設問)および自由記入式 4 設問である。

項目数は、総合評価(6 問)以外は個別設問ごとに重要度・満足度を聞いているが、これを 1 問と数えて、学部・大学院共通設問が 168 問、大学院用が 8 問である。

特徴的なことは、総合評価を除く全ての設問で満足度(最低 1-最高 7)と重要度(最低 1-最高 7)を聞いて、さらにこの結果を編集して重要度と満足度のマトリクスで取るべき対処を示していることである。即ち、設問毎に平均重要度(7←最重要→5.5←重要→5←あまり重要でない→1 に 3 区分化)と満足度(1←大変不満足→2.75←不満足→3.75←OK→4.25←満足→5.25←大変満足→7 で 5 区分化)の 2 軸でマトリクス化して、対応するマスごと取るべき処置を決めている。例えば、満足度・重要度共に最低の場合には「資源が許す場合に改善」、共に最高の場合には「優れた水準を維持」といった対処を示している。

2. 調査の例 (URL など)

以下に、米国と英国における大学や機関における達成度・満足度調査の調査組織と調査サイトの例を示す。多くの大学で設問(survey instruments)を公開しているが、調査結果については「全て公開」、「要約を公開(大学広報誌などを含む)」、および「非公開」の場合がある。米国の例には、参考に教職員調査の例も上げた。

2.1 米国大学 (大学センター情報と Senior Survey 関係の例)

- **Cornell University:** The Division of Planning and Budget
 - ・ Institutional Planning: http://dpb.cornell.edu/IP_E_Survey_Overview.htm
 - ・ Senior Survey: http://dpb.cornell.edu/IP_E_Senior_Survey.htm
- **Columbia University:**
 - ・ School of General Studies: <http://www.gs.columbia.edu/>
 - ・ Senior survey: <http://www.gs.columbia.edu/senior-survey-introduction>
- **MIT:** Institutional Research, Office of Provost
 - ・ Surveys: <http://web.mit.edu/ir/surveys/>
 - ・ Undergraduate Students: Senior Survey <http://web.mit.edu/ir/surveys/senior.html>
- **Penn. State Univ.**
 - ・ Student Affairs Research and Assessment: <http://studentaffairs.psu.edu/assessment/>
 - ・ The Penn State Student Satisfaction Survey: <http://studentaffairs.psu.edu/assessment/satisfaction.shtml>
- **Stanford:** Institutional Research & Decision Support
 - ・ Survey research: http://www.stanford.edu/dept/pres-provost/irds/ir/survey_research/survey_research.html
 - ・ Survey reports (summary examples): http://www.stanford.edu/dept/pres-provost/irds/ir/survey_research/survey_reports.html
- **UCLA:**
 - ・ The Higher Education Research Institute (HERI): <http://www.heri.ucla.edu/abtHERI.php>
 - ・ The Cooperative Institutional Research Program (CIRP) Surveys and Services: <http://www.heri.ucla.edu/herisurveys.php>
 - ・ College Senior Survey: <http://www.heri.ucla.edu/cssoverview.php>
- **USC:**
 - ・ Student Affairs Information Technology: <http://sait.usc.edu/>
 - ・ Student Outcomes Research: (各種調査) <http://sait.usc.edu/sor/>
 - ・ USC Experience Survey: (特に在学生関係) <http://sait.usc.edu/sor/surveys/usc-experience-survey.aspx>

○ **教職員調査の例:**

- Seattle University:
Faculty and staff satisfaction 2009: <http://www.seattleu.edu/survey/default.aspx>
- UCSD: Faculty and Staff Customer Satisfaction Survey 2010
<http://vcba.ucsd.edu/Performance/2010/pdf/2010CSSSurveyScreenshots.pdf>

2.2 英国 (UK Student Survey 等)

(1) NSS, PTES, PRES 関係

- HEFCE: Learning and teaching:
 - Providing information about higher education: <http://www.hefce.ac.uk/learning/infohe/>
 - The National Student Survey (NSS): <http://www.hefce.ac.uk/learning/nss/>
 - The National Student Survey: <http://www.thestudentsurvey.com/>
 - Unistats: Download data extracts
<http://unistats.direct.gov.uk/downloadSpreadsheet.do;jsessionid=C6F2501015AF14CAF2E6D00049C04319.worker4>
- 関連情報
 - Key Information Sets: <http://www.hefce.ac.uk/learning/infohe/kis.htm>
 - The quality assurance framework (QAF) for higher education (HE):
<http://www.hefce.ac.uk/learning/qual/qaf/>
- The Higher Education Academy (HEA)関係
 - Home: <http://www.heacademy.ac.uk/>
 - Student experience surveys:
<http://www.heacademy.ac.uk/student-experience-surveys>
 - Postgraduate Taught Experience Survey (PTES): <http://www.heacademy.ac.uk/ptes>
 - Postgraduate Research Experience Survey (PRES):
<http://www.heacademy.ac.uk/pres>

(2) Student Satisfaction Survey 関係

- The University of Cambridge
 - Learning and Teaching : <http://www.cam.ac.uk/univ/learning/index.html>
 - Student Surveys : <http://www.cam.ac.uk/univ/learning/surveys.html#nss>
- University of Essex:
 - The Systems Administration Office: <http://www2.essex.ac.uk/academic/offices/smo/>
 - Student satisfaction survey:
<http://www2.essex.ac.uk/academic/offices/smo/survey.htm>
- Oxford Brookes Univ.
 - Student information: <http://www.brookes.ac.uk/students>
 - Student satisfaction survey: <http://www.brookes.ac.uk/students/satisfaction>

以上

(別表 1-1、1-2、1-3: 以降2ページ)

表 1-1 共通調査項目とMIT、Cornell 大の独自の追加調査項目

注	Evaluation the university						More on the university			
	Overall	Academic experience	Quality of course interaction	Major 1st	Major 2nd	Major 3rd	Academic experience (2)	Faculty member care	Campus services/facilities	Quality of campus life
共通	1	9	6	2	2	1	9		20	13
追加	MIT			13	13	12			3	
	Cornell		4		2			3		

注	What you've learned				Your expenses			Your plans		
	Abilities & knowledge	Life beliefs or values rethink	Other students Interaction	Your average grade	Extra-curricular activities & work	Library resources and services	Pay for college	Next year	Fall job plan	Fall education plan
共通	24	7	7	1	23		11	2	2	
追加	MIT			(*1)			4			1
	Cornell			1		1	4	4		

注	Your plans (cont'd)		Your background		Questions just for MIT students		自由記入	その他		合計
	Educational goals	Info. & advise sources	共通	Your parents/guardians	Expenses (aid)	Students advisor		(*3)		26 群+自由記入
共通	4	14	4	2						196
追加	MIT		4 (*2)	2	24	17	3	(2)		96
	Cornell	1	6	3			1			30

注：設問の種別分類は、Cornell 大学の分類に従っている。このため、MIT では順番は全てがこの通りという訳ではない。

*1：MIT ではこの共通設問は、*2に置かれている(追加4問に加えて1問)、*3：インセンティブの選択など

表 1-2 Penn State Univ. (ロケーション共通項目)

	所属 College	Overall quality	Academic experiences	Academic services	Student services	当該年度 の活動参 加と程度	今学期の1 週間のすご し方と%	Background	合計	ロケーショ ン別設問 (オプショ ン)
評価対象	大学	大学	個人的体験	大学	大学	大学内外	個人活動	(個人情報)		
設問数	(1)	8	13	4	28	10	11	17	91	最大 20

表 1-3 UCLA (大学共通項目)

項目	統計用	達成度: 知識・能力	学業・活動・ 体験	同左	進路	過去1年間 での1週間 の平均行動	過去2週間 の飲酒	過去1年間 の学業関連 活動	対大学満足 度(施設、 教程、等)	同左(総 合、支援レ ベル、等)
設問形式	入学年、専 門等	入学時から の差 * 1	頻度 (3 選 択肢) * 2	Yes/No	指定された 記号を選択	「無」から8 段階の頻度	「無」から6 段階の頻度	頻度 (3 選 択肢) * 2	* 3	* 4
設問数	7	15	31	26	1	14	1	12	15	12
項目	個人の行動 経験(趣味 など)	能力(同年 者との相対 評価)	他との関係 における自 己認識度	同左 (同年代と の比較)	異人種/文 化の学生と の体験	個人的価値 観の重要度	教員からの 支援の体験	社会と倫理 についての 価値観	学費のため の借金	過去1年間 の学費の取 得元
設問形式	頻度 (3 選 択肢) * 2	5 段階分布 * 5	4 段階 * 6	* 5	頻度 (5 選 択肢) * 7	4 段階 * 8	* 2	* 6	実数を記入	「無」から6 段階の数値
設問数	17	18	18	5	9	21	13	10	1	5
	キャリア上 の重要点	卒業直後の 予定	同左: 雇用の場合	同左: 進学の場合	学位: 卒 業時と将来	学部を他人 に薦めるか	個人情報	合計 (除く 統計、個人 情報)	統計用情報 +個人情報	部門別の 追加設問 (オプショ ン)
設問形式	* 8	14 選択肢 複数選択可	6 選択肢	7 選択肢	10 選択肢	4 選択肢 * 9				
設問数	10	1	1	1	2	1	4	258	11	0-14

* 1 「大きく強化」から「大きく弱化」まで5 選択肢。 * 2 頻繁・時々・無。 * 3 「非常に満足」から「非常に不満足」及び「無関心／判らない」まで6 選択肢、
* 4 「非常に満足」から「非常に不満足」までの5 選択肢。 * 5 「上位 10%」から「下位 10%」まで。 * 6 「強く同意」から「強く非同意」まで。 * 7 頻繁・
多い・時々・めったに・無。 * 8 必須・大変重要・ある程度重要・重要でない。 * 9 「絶対に yes」・「多分 yes」・「絶対に no」・「多分 no」